

泉井久之助著書論文目録補遺

京都大学大学院 人間・環境学研究科 山口研究室 編

1930年

『言語地理学』『地理学講座 地理学詳論三二』所収、地人書館発行（東京）、1930年、1-31頁。

1936年

（翻訳）ニコライ・トゥルベツコイ 「『音韻』は如何に記述すべきか」『方言』第六卷第八號。

注：後に『言語學論攷』（敝文館、1944年）に再録される。

1937年

「メイエ教授（一八八六～一九三六）」『コトバ』第七卷第三號（文学社發行）、13-18頁。

注：後に『言語學論攷』（敝文館、1944年）に再録される。

『言語地理学』『修正版地理学講座 第十四回』地人書館発行（東京）、1937年12月、1-40頁。

注：『言語地理学』（1930年）に「狭義の言語地理学」と題する補訂と文献が加えられる。

（翻訳）ニコライ・トゥルベツコイ 「形態音韻學について」『方言』第七卷第四號。

注：後に『言語學論攷』（敝文館、1944年）に再録される。

1939年

「突厥語における數詞の組織について」『言語研究』第1號（日本言語學會）、54-59頁。

注：後に『言語學論攷』（敝文館、1944年）に一部改稿の上再録される。

「格と時稱との一つの場合について」『言語研究』第2號（日本言語學會）、34-47頁。

注：後に『言語學論攷』（敝文館、1944年）に再録される。

(書評・紹介)「Richard Höningwald: Philosophie und Sprache. Problemkritik und System. Basel. 1937.」『言語研究』第1號(日本言語學會)、94-95頁。

(書評・紹介)「Encyclopédie Française, Tome I (Outillage Mental). Partie II. Le langage (Sous la direction de : A. Meillet). Paris. 1937.)」『言語研究』第1號(日本言語學會)、95-97頁。

(書評・紹介)「Meščaninov I. I. : Problema klassifikacii jazykov v svete novogo učenija o jazyke [新言語學における言語分類の問題] . Leningrad-Moskva. 1935.」『言語研究』第2號(日本言語學會)、73-75頁。

(書評・紹介)「Reichling Anton: Het woord [單語] . Een studie omtrent de grondslag van taal en taalgebruik. Nijmegen. 1935.」『言語研究』第2號(日本言語學會)、76頁。

(書評・紹介)「Diringer David: L'alfabeto nella storia della civiltà. Firenze (S. A. G. Barbèra Editore). 1937.」『言語研究』第3號(日本言語學會)、83-86頁。

(書評・紹介)「Varro: De lingua latina. ed & transl. by R. G. Kent. (Loeb Class. Libr.) vol. II. 1938.」『言語研究』第3號(日本言語學會)、104-108頁。

(書評・紹介)「Jespersen, Otto: En sprogmands levned [一語學者の生涯] . København. 1938.」『言語研究』第4號(日本言語學會)、71-72頁。

1940年

Un coup d'œil sur la langue ts'ü:k, Exposition préliminaire I. 『言語研究』第5號(日本言語學會)、14-54頁。

Le systeme verbal du chamorro actuel de L'île Saïpan. 『言語研究』第6號(日本言語學會)、14-27頁。

(書評・紹介)「ACTA LINGUISTICA, Revue Internationale de Linguistique Structurale. København, Tome 1, Einar Munksgaard. 1939.」『言語研究』第5號(日本言語學會)、72-73頁。

(書評・紹介)「Gregoire Antoine: La Linguistique (Bibliothèque des Chercheurs et des Curieux). Paris(Delagrave). 1938.」『言語研究』第5號(日本言語學會)、74頁。

(書評・紹介)「Gray Louis H. : Foundations of Language. New York. 1939.」

『言語研究』第5號（日本言語學會）、74-75頁。

（書評・紹介）「Edwards E. D. and Blagden C. O. (transcribed, translated, and edited by): A Chinese Vocabulary of Cham Words and Phrases. Bulletin of the School of Oriental Studies. Vol. X. Part I. 1939.」『言語研究』第5號（日本言語學會）、75-77頁。

（書評・紹介）「Husserl, Edmund: Erfahrung und Urteil. Untersuchungen zur Genealogie der Logik. Ausgearbeitet u. hsgb. von Ludwig Landgrebe. Prag. 1939.」『言語研究』第6號（日本言語學會）、46-47頁。

1941年

Un coup d'œil sur la langue ts'ü:k, Exposition préliminaire II. 『言語研究』第7・8號（日本言語學會）、34-46頁。

1942年

「南方語の系統」『南方講座』京都市教育局文化課、59-78頁、1942年。

1943年

「内南洋の言語 — その数詞について」『西南太平洋の文化と民族』（太平洋協會編）、1943年。

（翻訳）ヴィルヘルム・フォン・フンボルト「比較言語研究について」

注：後に『言語學論攷』（敝文館、1944年）に再録される。

1944年

「大東亜言語政策の基調」『知性』第7巻4月号、河出書房、1944年、38-41頁。

1949年

A propos d'une table de correspondances des phonèmes bälau(palau). 『言語研究』（日本言語學會）第14號、1949年。

1951年

「百夷館譯語に於ける百夷の言語の聲調について」『言語研究』（日本言語學會）第19・20號、23-34頁。

(書評・紹介)「Benveniste, Émile: Noms d'agents et noms d'action en indo-européen. Paris. 1948.」『言語研究』(日本言語學會)第19・20號、144-145頁。

(書評・紹介)「Renou, Louis: La gramamaire de Pāṇini. traduite du Sanskrit avec des extraits des commentaires indigènes. fascicule I. (Adhyāya 1.2.et3). Paris (C. Klincksieck). 1948.」『言語研究』(日本言語學會)第19・20號、145-146頁。

(書評・紹介)「Buck, Carl Darlington: A dictionary of selected synonyms in the principal Indo-European Languages(Containing more than a thousand semantic groupings of words in the principal Indo-European Languages). A contribution to the history of ideas. Chicago(Univ. of Chicago Press). 1949.」『言語研究』(日本言語學會)第19・20號、146-148頁。

(書評・紹介)「Buck, Carl Darlington, and Walter Petersen: A reverse index of Greek nouns and adjectives. Arranged by terminations with brief historical introductions. Chicago(Univ. of Chicago Press). 1944 (出版年次記載なし).」『言語研究』(日本言語學會)第19・20號、148-150頁。

(書評・紹介)「The Iliad of Homer, A line for line translation in daetylic hexameters, by William B. Smith and Walter Miller. New York(MacMillan). 1950.」『言語研究』(日本言語學會)第19・20號、150-152頁。

(書評・紹介)「Karlsgren, B.: The Chinese language. An essay on its nature and history. New York(Ronald Press). 1949.」『言語研究』(日本言語學會)第19・20號、152-156頁。

1953年

「ママチチ・ママハハ — インドネシア語と日本語」『言語研究』(日本言語學會)第22・23號、46-55頁。

1955年

(書評・紹介)「Bedřich Hrozný: Ancient History of Western Asia, India and Crete. Praha(sans date).」『言語研究』(日本言語學會)第28號、75-79頁。

1957年

「第8回国際言語学会議」『言語研究』(日本言語學會)第32號、121-136頁。

1963年

「アフリカにおけるアフリカ諸語研究の概況と CCTA / CSA」『言語研究』（日本言語學會）第43號、50-56頁。

「Winfred P. Lehmann: Historical Linguistics. An Itroduction. New York (Holt, Rinehart and Winston). 1962.」『言語研究』（日本言語學會）第43號、61-62,56頁。

『日本語の歴史1 民族のことばの誕生』（亀井孝他編、平凡社）を執筆する。分担は不明。

1979年

『バスク語入門』序『バスク語入門 — 言語・民族・文化 — 知られざるバスクの全貌』（下宮忠雄）大修館書店。

【付録】

（書評）「泉井久之助の『フンボルト』（河合栄治郎）『改造・読書漫筆』1938年9月号、改造社。

（書評）「メイエ著 泉井久之助訳、史的言語学に於ける比較の方法」（小林英夫）『帝国大学新聞』、1934. VI. 25.

（書評）「サピーア著 泉井久之助訳、言語」（小林英夫）『図書新聞』No. 394. 1957. IV. 13.

（回想）「泉井久之助先生を偲ぶ」（蛭沼寿雄）『古代ロシア研究 — 泉井久之助・菱山 忍両先生追悼号』（日本古代ロシア研究会）XV. 1983.

（回想）「泉井先生の思い出」（風間喜代三）『古代ロシア研究 — 泉井久之助・菱山 忍両先生追悼号』（日本古代ロシア研究会）XV. 1983.